

# 小児腎炎の悪化・慢性化について (まとめ)

## 特定課題

京都府医師会学校医部会 高島 雅行

(1) 60年度には京都市及び周辺の学校在学児童・生徒の腎疾患の罹患実態調査を行うと共に、従来から行って来た統計的観察を加え、小児腎疾患の発病時期、罹病期間、発見動機、治癒経過、更に悪化再発のあった者についてはその誘因原因について調査した。また総理府発表の死亡統計の中で、腎疾患による死亡率が学校検尿の制度化とともに20才以下で著減を示していることを指摘し、検尿制度の意義を改めて強調した(高島)。

(2) 61年度にはこれら腎疾感、特に組織学的にIgA腎症と確認され、しかも発病後3年を経過した症例144例について最終時の尿所見により、予後良好群、不定群、不良群の3群に分け、発症年齢、初期症状、悪化因子、ステロイド剤投与時期、組織所見等と予後の関連について調べた。発症時の尿蛋白の少ないほど、また薬剤投与の早かった例ほど予後良好であった。悪化因子として本病では感染症が15.2%と多かった。(館石)

田村は成人に移行したIgA腎症例についてその経過を遡及調査し、特に腎不全例についてその発病から管理・治療状況を検討した。

また検尿・管理システムに就て全国規模の研究會を京都で開催し各地の関心を高めるとともに適切なシステムの模索につとめた。

(3) 62年度には運動負荷による尿中微量Alb、NAGCrの変化について検討した。健常児では殆んどが大きな変化はなく少数で運動後上昇が見られた。尿所見の安定した腎疾患では縄飛び200回の負荷でも正常児に比べて負荷後上昇した者が多かった。腎疾患児の運動量の設定或いは治療判定等の指標の一つとなるかと思われた(館

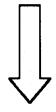
石その他)。

高島は尿の検査項目に更に比重、亜硝酸塩検査を加えることの有用性について検討した。

### まとめ

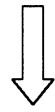
小児腎炎の悪化・慢性化は発病時の年齢・発病時の尿所見が大きく規定するが、最も影響があるのは腎臓病に就ての理解不足から起こる日常生活の不適正であった。またIgA腎症などでは感染症の影響も大きかった。

これから見ても小児慢性腎炎の悪化慢性化の防止のためには、勿論治療法の確立が最重要課題であるが、現段階では早期発見・早期治療及び徹底した自己管理とその支援体制としての管理システムの確立が願われる。これらは学校内では一応整備されているが、幼児及び成人に対しての社会環境内では全く無いに等しく、今後は保健所を中心とした登録制度、保健婦による訪問指導等の社会的支援体制が望まれる。さらに腎臓病対策の根底として腎臓病の本質経過予後等についての理解が国民的共感にまで盛り上るまで腎臓病教育の推進普及こそが現下の緊急施策かと考えられた。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



小児腎炎の悪化・慢性化について

(まとめ)

特定課題

京都府医師会学校医部会 高島雅行

(1)60 年度には京都市及び周辺の学校在学児童・生徒の腎疾患の罹患実態調査を行うと共に、従来から行って来た統計的観察を加え、小児腎疾患の発病時期、罹病期間、発見動機、治癒経過、更に悪化再発のあった者についてはその誘因原因について調査した。また総理府発表の死亡統計の中で、腎疾患による死亡率が学校検尿の制度化とともに 20 才以下で著減を示していることを指摘し、検尿制度の意義を改めて強調した(高島)。

(2)61 年度にはこれら腎疾感、特に組織学的に IgA 腎症と確認され、しかも発病後 3 年を経過した症例 144 例について最終時の尿所見により、予後良好群、不定群、不良群の 3 群に分け、発症年令、初期症状、悪化因子、ステロイド剤投与時期、組織所見等と予後の関連について調べた。発症時の尿蛋白の少ないほど、またステロイド剤投与の早かった例ほど予後良好であった。悪化因子として本病では感染症が 15.2%と多かった。(舘石)

田村は成人に移行した IgA 腎症例についてその経過を遡及調査し、特に腎不全例についてその発病から管理・治療状況を検討した。

また検尿・管理システムに就て全国規模の研究会を京都で開催し各地の関心を高めるとともに適切なシステムの模索につとめた。

(3)62 年度には運動負荷による尿中微量 Alb、NAGCr の変化について検討した。健常児では殆んどが大きな変化はなく少数で運動後上昇が見られた。尿所見の安定した腎疾患では縄飛び 200 回の負荷でも正常児に比べて負荷後上昇した者が多かった。腎疾患児の運動量の設定或いは治癒判定等の指標の一つとなるかと思われた(舘石その他)。

高島は尿の検査項目に更に比重、亜硝酸塩検査を加えることの有用性について検討した。

まとめ

小児腎炎の悪化・慢性化は発病時の年令・発病時の尿所見が大きく規定するが、最も影響があるのは腎臓病に就ての理解不足から起こる日常生活の不適正であった。また IgA 腎症などでは感染症の影響も大きかった。

これから見ても小児慢性腎炎の悪化慢性化の防止のためには、勿論治療法の確立が最重要課題であるが、現段階では早期発見・早期治療及び徹底した自己管理とその支援体制としての管理システムの確立が願われる。これらは学校内では一応整備されているが、幼児及び成人に対しての社会環境内では全く無いに等しく、今後は保健所を中心とした登録制度、保健婦による訪問指導等の社会的支援体制が望まれる。さらに腎臓病対策の根底として腎

臓病の本質経過予後等についての理解が国民的共感にまで盛り上げるまで腎臓病教育の推進普及こそが現下の緊急施策かと考えられた。